



定期散布を徹底し、高品質な柿を生産しましょう！

来年の花芽形成時期は7～8月頃です。樹全体に十分な日光が当たるように新梢管理を行ってください。また、本年の着果状況は全体的に良好です。大玉で高品質の柿を生産し、来年度の収量を確保するためにも適正着果に努めましょう。

病害虫防除

◎7月下旬（7月30日頃まで）の薬剤散布

●収穫前や収穫中の作物に飛散しないよう、十分注意する。

散布薬剤	水	100ℓ 当たり	散布日 月 日
	展着剤（ハイテンパワー）	10ml	散布量 ℓ
	オーソサイド水和剤 80	100g	（7日前、5回）
	劇オリオン水和剤 40	100g	（21日前、1回）
対象病害虫	落葉病、炭疽病、すす点病、アザミウマ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、ケムシ類、イラガ類、カキノヒメヨコバイ		
散布量	500ℓ / 10a *若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する。		
注意事項	①【落葉病重点防除】昨年、落葉病が発生した園地では必ず散布する。 ②【カキノヘタムシガ対策】オリオン水和剤 40 に代えて、サムコルフロアブル 10 の5,000 倍（前日、3回）を使用する。 ③オリオン水和剤 40 は劇物登録農薬です。購入の際は印鑑を持参してください。		

次面もご覧ください

●今後の管理について

1. 仕上げ摘果（7月中旬まで）

【目的】

- ・果実肥大をよくし、小玉果を作らないため。
- ・糖度を上げるため（干した際に柿霜（白い粉）を吹かせる）
- ・隔年結果を防ぐため

【摘果の程度と着果位置】

- ・新梢長 10 cm以下の短果枝には着果させず、それ以上の長さの中長果枝には1果残す。
- ・基部から2・3果目を残す。（3果なっている場合は2果目、それ以上の場合は3果目を残す）
- ・枝が垂れるのを防ぐため、側枝先端の新梢には着果させない。

2. 新梢管理（7月末まで）

- ・まとまって発生している新梢を間引く程度に整理する。
- ・主枝背面から発生している新梢も切除するが、摘芯によって葉は置き、すべて切除しない。
- ・主幹の潜芽から発生している新梢を切除する。

3. 雑草管理

- ・主幹の害虫対策として、根元は常にきれいにしましょう。
- ・散布薬剤⇒バスタ液剤（収穫前日まで、3回以内）
10a 当り 水 100～150ℓ、バスタ液剤 500mℓ

次回（予定）：7月17日